



### 消化器病センターのご紹介

#### 消化器病センター

2005年10月より、消化器内科と外科が入院病棟6階の同一フロアに集結し、消化器病センターがオープンしました。当センターは消化器内科専門医9名と消化器外科専門医5名及び研修医数名から構成され、「低侵襲の最先端治療を高度な技術を駆使して短時間で完遂する」ことを目標として診断・治療を行ってきました。センター化により消化器内科・外科の連携が一層向上し、消化器分野のあらゆる疾患に対応可能な体制が整ったことで、旭川市内のみでなく、道北における基幹消化器病センターとして患者様、紹介いただく医療機関の皆様にも満足していただける高いレベルの医療を提供いたします。今回は消化器病センターの内科部門についてご紹介いたします。

#### 消化器内科部門の特色と診療の概要

内科部門では、大きく消化管疾患と肝・胆・膵疾患の専門分野に分かれて診療を行っており、高度・特殊・先進医療を担い、旭川および上川地域の医療水準の向上に努めることを目標として、個々の専門性を生かして診断・治療に当たっています。消化管部門では消化管癌の精密診断と同時に、体に優しい最新の内視鏡治療を積極的に行っており、その診断技術は全国的に見ても高いレベルを誇っています。また、不幸にも外科手術の適応にならない進行癌の患者様に対しては、放射線科との連携により放射線と抗癌剤による放射線化学療法を行うことで、できるだけ患者様の生活水準を損なわないような治療を心がけています。肝・胆・膵分野では超音波や内視鏡などの先端医療機器と優れた技術を駆使して、早期癌の診断、良・悪性疾患の診断及び内視鏡治療を行っています。また、難治性肝炎に対するインターフェロン治療、放射線科の先生と共同で血管造影も併用した肝癌に対する集学的治療も積極的に行っています。

#### 積極的に取り入れている治療法

##### ○消化管領域

超音波内視鏡(カメラの先端にエコーがついている特殊機器)、X線バリウム検査等の精密診断に裏付けられた早期消化管癌に対する内視鏡治療。具体的には、高度な技術を要する切開剥離法を食道・胃・大腸の早期癌治療に積極的に取り入れ、患者様の負担軽減に努めており、その診断、治療技術の高さは全国にも知られています。進行消化管癌に対しては放射線科との協力によるリザーバー(点滴を簡単に行えるポンプ)併用による分子標的薬も含めた放射線化学療法を行い、その他にも炎症性腸疾患に対する精密診断と栄養・薬物療法、内視鏡治療などを行っています。

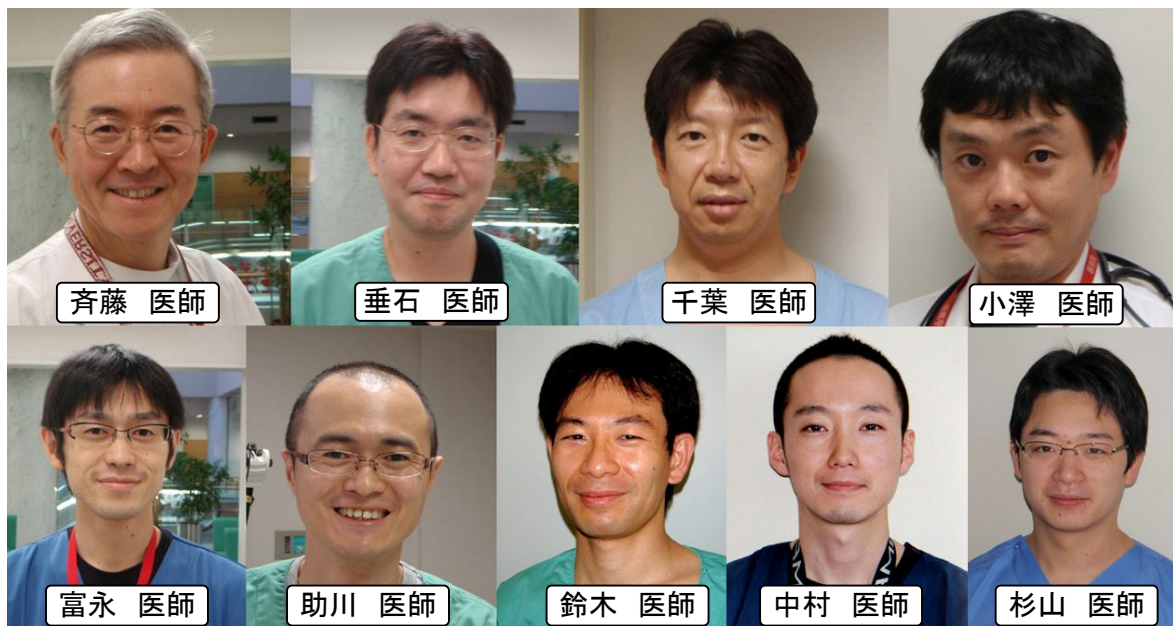
##### ○肝・胆・膵領域

C型慢性肝炎に対するウイルスの型、量に応じた各種インターフェロン療法を導入しています。内視鏡と懸案造影の併用による肝硬変症の食道静脈瘤に対する治療や全身への毒素流入を軽減する血流変更治療、肝癌に対する超音波穿刺によるラジオ波焼灼(RFA)療法や血管造影による塞栓化学療法、胆嚢・総胆管結石に対する内視鏡治療、胆管・膵悪性疾患に対する内視鏡的ドレナージ術(針を刺さず、内視鏡を用いて黄疸を治療する)、ステント装着術、超音波内視鏡下穿刺による組織診断、嚢胞ドレナージ術などを行っています。

## メンバーとその個性

9名の医師と初期研修医で稼働しています。それぞれの医師についてご紹介いたします。

- 齊藤裕輔 診療部長  
消化器病センター長。消化管の専門で、消化管の造影検査、大腸内視鏡検査・治療を中心にしています。
- 垂石正樹 診療部長  
化学療法センター長も兼任。消化管疾患のオールマイティープレーヤーで、特に難病である炎症性腸疾患が得意分野です。診療の中心的存在として活躍しています。
- 千葉篤 診療部長  
胆膵の専門で、チームリーダーとして診療しています。性格温厚で人望も厚く、その技術は折り紙付きです。
- 小澤賢一郎 医長  
消化管疾患専門。抜群の体力と忍耐強さが売りです。重症患者さんを死の淵から回復させ、衰弱しきった高齢の患者さんを元気に退院させる魔法使いです。
- 富永素矢 医長  
消化管専門。食道、胃、大腸の早期癌に対する内視鏡治療、中でも非常に高度な技術を要する粘膜下層切開剥離術(癌を切らずに治す)を得意としています。
- 助川隆士 医長  
肝胆膵専門。特に肝疾患診療を一手に担います。膨大な数の肝臓外来と入院患者さんを手際よくこなす優れ者です。
- 鈴木聡 医師  
肝胆膵専門。広く豊富な知識を有し、科全体のアドバイザー的役割を果たす自由人的な医師です。現在、胆膵のマスター目指して猛特訓中です。
- 中村和正 医師  
肝胆膵専門。大学で博士号を取得し、現在、胆膵のマスターの上を目指して技術にさらなる磨きをかけています。
- 杉山隆治 医師  
消化管疾患専門。2010年秋に大学から赴任しました。多忙な仕事も淡々とこなす優秀な若手医師です。現在、消化管診断・治療の高度な技術について重点修行中です。



## 診療の際に心がけていること

患者様への説明と同意の徹底、患者様の意志尊重を基本として、患者様に優しく心の通った治療を心がけています。具体的には、低侵襲の最先端治療を高度な技術を駆使して短時間で完遂するよう努力しています。消化器部門は院内でも超多忙な科の一つですが、どんなに多忙でも、皆仲良くお互いに励まし合い、常に笑いがあるような連帯感のある仲間であることを心がけながら、日々診療に当たっています。

## 内視鏡検査・治療件数の推移

ここ4年間の内視鏡件数、治療件数の推移について記載します。市内でも最多の検査件数を誇っています(消化管癌の内視鏡治療数、質は全国的にも高く、特に早期大腸癌の内視鏡治療件数は2006年には120件と全国13位を誇っております(プレジデント2007.12.17号(プレジデント社)))。

症例数：

	2006年	2007年	2008年	2009年
上部消化管内視鏡検査(件)	4836	4971	5421	4649
下部消化管内視鏡検査	2483	2682	2778	2749
胆膵内視鏡検査	715	525	635	846
エコー下肝生検	54	16	37	53
合計	8088	8194	8871	8297

治療実績・成績

	2006年	2007年	2008年	2009年
上部消化管内視鏡治療(止血)	160(126)	161(109)	149(105)	215(90)
下部消化管内視鏡治療	354	441	365	460
胆膵内視鏡治療	263	288	262	378
食道静脈瘤硬化療法	62	78	58	139(EVL88)
エコー下肝癌治療	70	86	53	79
動脈塞栓術・抗癌剤動注療法*	126	166	143	110
動注リザーバー挿入*	30	3	15	28
合計	1065	1223	1045	1409

※：当院放射線科の専門医により施行

## がん相談支援センターのご案内

平成21年4月から入院・外来の患者様、ご家族の方にかかわらず、他院の患者様や一般の方々からのがんに関する疑問や不安、悩み、意見に対して相談支援をするため、「がん相談支援センター」が設立されました。がん相談支援センターでは、がんについて詳しい看護師や、生活全般の相談ができるソーシャルワーカーが質問や相談をお受けしています。患者様やご家族の方がお困りの際はまずご相談ください。ご相談は相談支援センターに直接お越しいただく方法と、電話でお話をうかがう方法があります(相談は無料です。また、ご相談いただいた個人的内容が外に漏れることはありません)。

- 相談時間：平日8:30～17:00
- 相談場所：市立旭川病院1階 がん相談支援センター  
TEL 0166-24-3181(内線5372)



- 例えば
- ・がんの情報が知りたい
  - ・医療費、生活費のことが心配
  - ・家族が病気でどうしたらよいか分からない
- などのご相談に応じます。



相談の様子



循環器内科診療部長  
石井 良直

## 医師紹介 私の履歴書

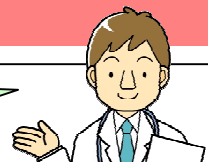
1959年6月12日に美唄市で生まれ、2歳で父の故郷である小樽へ転居しました。海と山に囲まれた小樽での少年時代は、夏は海へ、冬は天狗山にスキーへよく連れて行ってもらいました。中学からサッカーを始めて、高校、大学とサッカー部に所属しました。今、一緒に循環器内科で仕事してくれている奥山先生は大学サッカー部の後輩です。高校からは親元を離れて、函館ラ・サール高校へ入学し、3年間寮生活を送りました（消化器内科の垂石先生とは同期です）。

1985年に旭川医大を卒業後、故・小野寺壮吉先生の主宰する旭川医大第一内科に入局し、1年間は大学の研修医として主に呼吸器内科の勉強をし、その後、砂川市立病院、国立療養所名寄病院で、循環器以外の内科全般を勉強しました。その後、当院の循環器内科に1年間出張医として勤務しました。その際には、故・館田邦彦先生に循環器のダイナミックさ、大変さ、面白さを教えて頂いたこと、また、重症な患者さんを救命できたときに覚えた充実感が今の礎となっています。その後、7年半は旭川医大で勤務し、循環器臨床、主に心臓カテーテル検査および治療、運動負荷検査に従事し、そのデータを基に学位を授かりました。大学時代は若手医師への指導が好きで、熱血すぎる先輩としての伝説があるらしく、今でも怖がられているようであります。本人はいたって優しく思いやりがあるつもりですが（笑）

1996年4月から、当時の菊池健次郎教授のご配慮で当院に再び勤務し早15年になります。循環器救急診療に歴史のある当院での勤務は、臨床一筋の小生にとって願ってもない勤務先でありました。心筋梗塞を中心とした虚血性心疾患の症例数も豊富であり、臨床研究を立ち上げて学会発表など精力的に仕事してきたつもりです。しかし、最近の若手医師の循環器志望者も少なく、マンパワー的に当院も斜陽に向かいそうで心配です。寝ないで仕事できる体力も最近はなく、若いやる気のある医師達にぜひ当院循環器内科で仕事をして助けて頂きたいと切に願う次第です。サッカー観戦以外にこれという趣味もないですが、人生一度なのでいつかはゴルフを覚えて楽しみたいと願っていますが、いつの日になることやらと思っている今日この頃です。今後とも宜しくご指導をお願い致します。



## お知らせ



### 共同利用検査の予約がより簡単になりました

CT、MRIなどの検査予約の方法が変わり、より簡単な手続でご利用いただけるようになりました。お電話一本でのご予約が可能です。ぜひご利用ください。

- ① 市立旭川病院へ電話にてご連絡をいただきます  
0166-24-3181（代表）  
※交換手に検査の種類をお伝えください。  
担当にお電話をおつなぎします。  
（例）「CT検査の予約です」など

- ② 患者様について次の情報をお伝えいただき、予約日時を決定します  
・氏名 ・性別 ・生年月日 ・電話番号

手続終了後、予約の内容を記載した検査予約確認票をFAXにてお送りいたしますので、患者様にお渡しください。

### 編集後記

早いもので2010年ももうすぐ終わり、また新しい年がやってきます。第2号となりました「医療連携NEWS」、いかがでしたでしょうか？ 今回ご紹介した部門の他にも、市立旭川病院には患者さまのために全力で働くスタッフが大勢います。これからも少しずつ、この医療連携NEWSでお知らせできればと思っています。

### 市立旭川病院 地域医療連携室

〒070-8610  
旭川市金星町1丁目1番65号  
TEL(0166)24-3181(内線5370)  
FAX(0166)26-0008  
E-mail : h\_jji@city.asahikawa.hokkaido.jp